

2 岡山操車場跡地整備の課題

(1) 都市づくりの基本方向

社会的背景

ア 少子・高齢社会の到来

わが国では急速に少子・高齢化が進行しており、平成 37 年には 65 歳以上の高齢者が人口の 3 割を占める一方、15 歳未満の人口は 1 割程度になると予測されている。

総人口は、平成 17 年から横ばいで推移しており、本市においては、人口は増加しているが、確実に進行する少子・高齢社会を見通したまちづくりへの対応が必要である。

イ 環境との共生

地球規模での気候変動や環境汚染など地球環境問題が深刻化しており、まちづくりを進めていく上で、地球環境問題への対応は必要不可欠である。

本市は多様で豊かな自然環境に恵まれており、都市的利便性と自然の豊かさのどちらも楽しめる都市を目指す。

ウ 安全・安心なまちづくり

近年、全国的に局地的なゲリラ豪雨の増加にともなう浸水被害が増加してきており、また大規模地震（東南海・南海地震）の発生も懸念されている。

幸い、本市は温暖な瀬戸内特有の風土により、比較的自然災害が少ない、恵まれた環境である。

しかしながら、南部の平野部は江戸時代からの干拓・埋め立てにより形成されていることから、大雨時等に水害・高潮被害を受けやすい状況である。

また、近年地震による大規模な被害を受けていないが、平成 15 年に「東南海・南海地震防災対策推進地域」の指定を受けており、地震による被害への備えが求められる。

災害発生時の被害を最小限にとどめるため、浸水・高潮対策等を進めるとともに、今後予想される大規模災害発生時への対応可能なまちづくりが求められる。

エ 広域的な役割

本市は、平成21年4月1日、政令指定都市へと移行し、より自立した自治体として自己責任のもとに持続可能な都市づくりを進めることが必要である。

また、中四国の交通の結節点に位置し、他都市にない地理的優位性、健康・医療・福祉、学術・研究・教育などの分野での都市機能の集積をいかし、中四国圏域の発展に寄与するまちづくりが求められる。

岡山市都市ビジョンによる位置づけ

本市は、平成21年4月1日、政令指定都市へ移行し、基礎自治体として自立度を高めながら、市民や民間事業者と協働して、安全・安心で持続可能な都市づくりを進めていくこととしている。そのために、市民と民間事業者と行政とが共有する、中長期にわたる都市づくりの目標（都市ビジョン）を策定している。

その中の「コンパクト市街地と田園の共生プロジェクト」において、西部新拠点地区は、市全体の都市格の向上に寄与し、都市機能の集積を図る新たな拠点地区として位置づけられている。

めざす都市像

水と緑が魅せる心豊かな庭園都市

豊かな水と深い緑という岡山の特性をいかし、そこに暮らす人々が美しく心輝いていく都市を創造

中四国をつなぐ総合福祉の拠点都市

高度な医療、先進的な福祉、伝統と厚みのある教育。これを総合化し、さらに力を高め、中四国、さらに西日本圏域の発展とそこに住む人々の幸せに貢献する都市を創造

(2) 周辺地域との関係からみた課題

広域からのアクセス優位性を活かした集客性のある整備内容の検討

跡地は、都心及び広域交通拠点（IC、空港、岡山駅）から至近に位置しており、主要な幹線道路に囲まれており、広域からの車によるアクセス性に優れている。また、JR 北長瀬駅も隣接しており、鉄道を利用したアクセスにも優れている。

この広域アクセスの優位性を活かし、広域からも多くの人を訪れる魅力ある整備内容の検討が必要である。

子育て世代や高齢者が安全安心に生活できる環境整備

跡地の位置する西部新拠点地区は、人口増加率が高く、また、15才未満及び30歳～44歳の人口増加も著しいことから、子育て世代が多い地区である。

今後、確実に進行する高齢社会への対応も見据えた、子育て世代や高齢者が安全安心に生活できる環境整備の検討が必要である。

(3) 敷地等に関する課題

広大な敷地を活かし、大規模イベント等の展開が可能な整備内容の検討

跡地の一部は都市公園として供用されており、ドームを中心にスポーツやイベント等で多くの方に利用されている。未整備部分を含め、都心近くに残された貴重で、広大な敷地を活かし、大規模イベント等の展開が可能な整備内容の検討が必要である。

大規模災害時における防災拠点としての役割・導入機能の検討

跡地のほとんどは、広域避難地及び広域物資拠点に指定されている。また、跡地周辺地域は市街化の進展が進み、今後も人口増加が見込まれる。

今後30年以内の発生確率が60%以上と予測されている東南海・南海地震への対応も視野に入れ、防災拠点としての役割・導入機能の検討が必要である。

(4) 市の施策、関連計画からみた課題

岡山市の目指す都市像の具現化を目指した整備内容の検討

本市が目指す都市像のシンボルとなる整備内容の検討が必要である。

「水と緑が魅せる心豊かな庭園都市」のシンボルとしては、低炭素社会への対応、緑のボリュームアップに貢献する、緑の拠点となる整備内容の検討が必要である。

「中四国をつなぐ総合福祉の拠点都市」のシンボルとしては、跡地の西に整備される（仮称）岡山総合医療センターの立地を活かした、健康・福祉・医療系都市機能の導入や健康増進や病気予防、機能回復を支援するような整備内容の検討が必要である。

市民協働、民間活力の活用

広大な跡地の整備を進めるにあたっては、行政のみでの整備を行うのではなく、積極的な民間事業者の参入も検討していく必要がある。そして、この跡地整備が市民に受け入れられ、長く愛される空間となるためには、多くの市民の理解と協力が必要不可欠である。

跡地整備にあたり、市民、民間事業者、行政とが協働して進めていく手法等の検討が必要である。